

02の講義内容 五十音のはなしと音訓について

—文字資料(漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字)から日本語學資料へ—

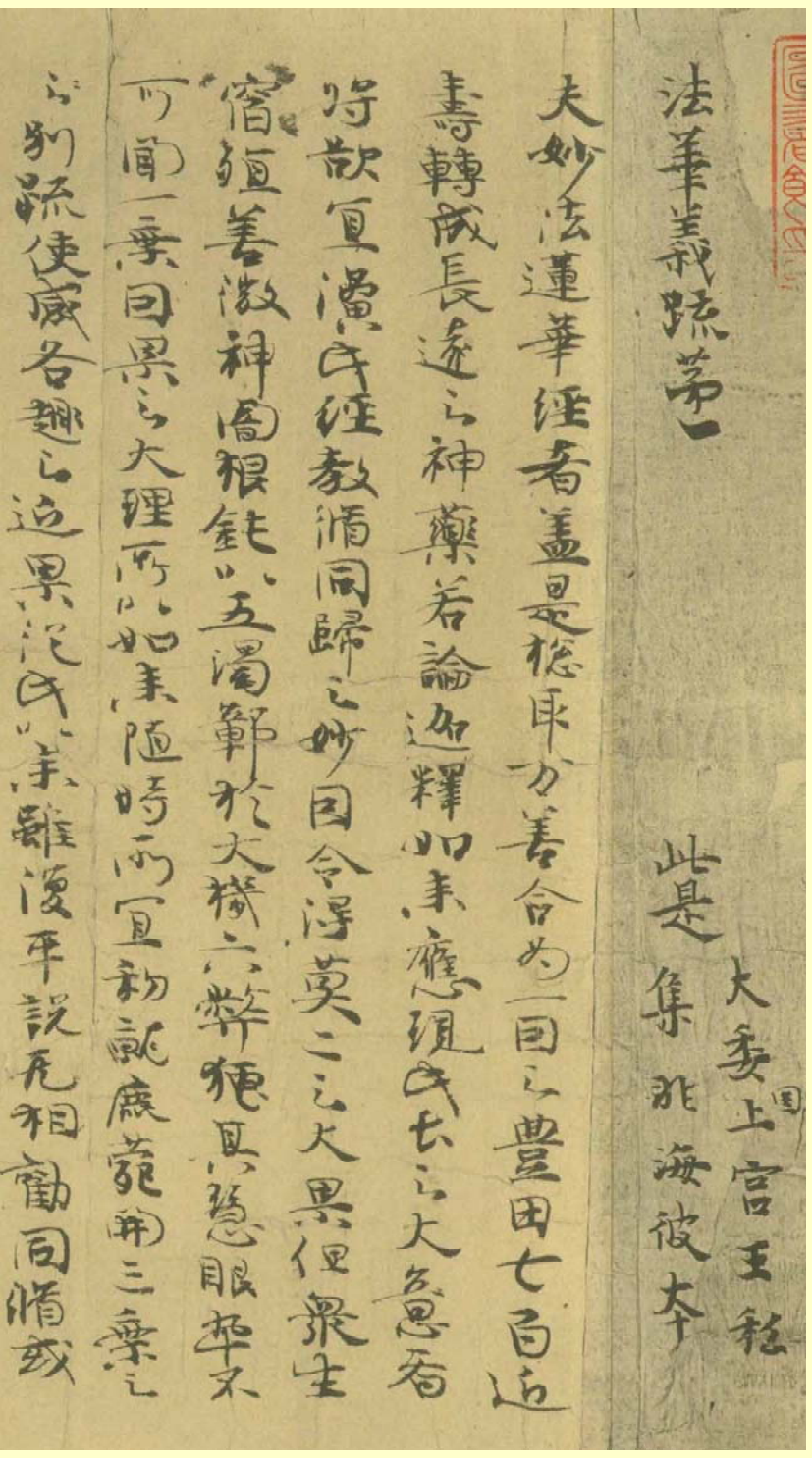
日本最古の資料とは

萩原 義雄

私たち人類が言語活動を開始したとき、話す⇨聞くこと、書く⇨読むことを、いつどのようにし始めたのか興味を抱かずにはいられません。

このなかで、話す⇨聞くことの言語形態は一過性にすぎず、露の如く消滅していきます。これに対し、書く⇨読むことの言語形態は、後世に継承することが可能でありました。ここでは、後者の書く⇨読むことの言語形態を素について話を進めてみましょう。

漢字を用いた日本語表記の遺品としては、五世紀半頃の二種の「金石文」、紙の資料としては、聖徳太子自筆本『法華義疏(ほつげきしよ)』『御物、推古天皇二十三年(西暦六一五)』や後の『日本書紀』所載の『十七條憲法』が知られています。この『法華義疏』の料紙は、中国の唐紙を用いていて、未だ本邦では和紙の生産ができず、輸入した高価な品物の一つであったようです。ここに尤も最古の日本文献資料として、今日まで維持保存されてきました。この書記者が聖徳太子なのかは事の真偽については諸説があり、未だ定説を見ない資料でもあります。ただ、この書記文字については、当代の四六駢儷体の文章的特徴を表出させています。



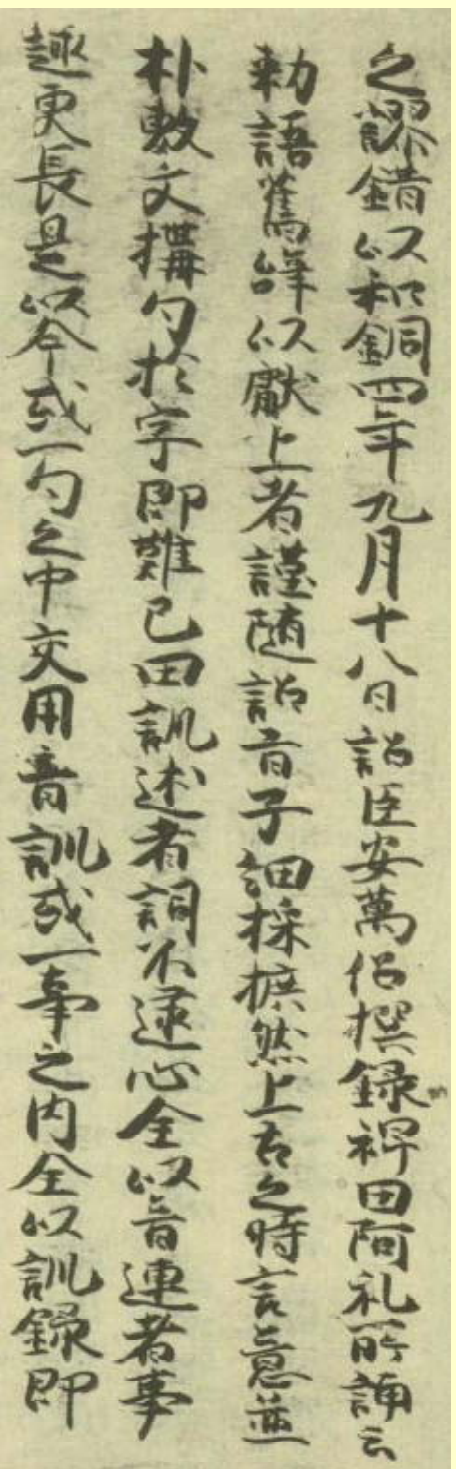
法華義疏第一

大委上官王程
此是
集非海彼本

夫妙法蓮華經者蓋是極中方便善合為一曰之豐田七百近
壽轉成長途之神藥若論迦釋如未應現長之入息者
時歎宜漫氏經教循同歸之妙因今得莫之入息但眾生
宿殖善滋神圖根鉢之五濁鄣於大嶽之弊獲具慈眼卒不
可聞一乘同果之大理所以如來隨時而宜初就底苑并三乘之
之別派使咸各趣之迤果從氏之乘難復平說无相勸同循或

日本最古の文字

古代日本人は、文字を用いていなかったと云いますが、果たして本統に文字言語と無縁な世界にあったのでしょうか？よく、文字が使えなかったので口誦により伝えてきたと云われてきました。実際、日本の古代神話をまとめた『古事記』(和銅四年(七一)九月十八日)には、「臣安萬侶」が「稗田阿礼」の口誦する内容を記録した。



然^{シヤウロノトキ}。上古^{ゼン}之時^{キナラヒボツツテ}。言意^{シキ}竝^フ朴^{コト}。敷^{オイテ}文^{ジニスナチカシ}構^{クニニヨルテ}句^{クニニムスツルモノハ}。於^{コトバズ}字^ヲ即^フ難^{コト}。已^{コトバズ}因^フ訓^{コト}述^フ者^ヲ。詞^{コトバズ}不^フ逮^フ心^ヲ。全^{コトバズ}以^フ音^ヲ連^フ者^ヲ。事^ヲ趣^フ更^フ長^ク。是^{コトバズ}以^フ今^ノ。或^{コトバズ}一^ノ句^ノ之^ノ中^ニ。交^フ二^ノ用^フ音^ヲ訓^ヲ。或^{コトバズ}一^ノ事^ノ之^ノ内^ニ。全^{コトバズ}以^フ訓^ヲ錄^ス。

と、このような日本語に於けることは表現の有様が語られています。そして、この『古事記』は、中国の漢字音を以て、日本語の音に当てはめて表記しています。

《参考資料》

◎紀田順一郎著『日本の書物』―太古のロマン』古事記』〔勉誠出版二〇〇六年刊〕

1、『古事記』太古のロマン。〔14頁〕。古代↓「吾と汝と天の下」日本神話の獨創性」原稿用紙六十枚の原典」 http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/kokugo_kojiki01.html

◎神野志隆光著『漢字テキストとしての古事記』〔東京大学出版会二〇〇七年二月刊〕

今日は、この文字の起源、そして現代の日本列島にどのように広まっていったのかその大概を伝えていきましよう！

※「しほ【塩】」という文字を例として

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/bunken-sihonomoji.htm>

http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi/ko_sihonomoji.pdf

《参考とする語句》

金石文 布帛文 竹簡・木簡 唐紙・和紙 洋紙 電子ペーパー

《今後の課題》

日本の最古の神話『古事記』は、原本は残存せず、鎌倉時代の古写本が伝来しています。この、『古事記』の本文(写本類)と電子印影や入力された文献資料を今後どのように見ていくのか？。そして、海外での碩学状況はどのような状況にあるのかを考えてみようではありませんか。

